

ごあいさつ

皆さんこんにちは、大分市社会福祉協議会保育部会会長の池田貴士です。

日頃より、大分市民の皆様には大変お世話になり厚く感謝申し上げます。

現在、少子化問題が大分市にも波及してきましたが、令和5年で全国で出生数は758,631人となり、8年連続で減少しているそうです。また、婚姻数は489,281組で戦後初めて50万組を下回りました。このため、少子化が改善することは難しく、しばらくは減少する見込みです。そんな中、政府はこども家庭庁を創設し、「こどもまんなか社会を目指す」としております。また、大分県は「子育て満足度日本一」、大分市の足立信也市長は「ひとを真ん中においたまちづくり」を提唱しています。私ども大分市保育部会は「すべてのこどもに安心・安全な保育環境を約束し、保護者の皆様に子育て相談・子育て支援を提供する施設」を常に心がけております。

最近では、保育施設を運営するうえで、いろいろな課題が持ち上がっております。1. 不適切な保育、2. バスでの送迎、3. 諸物価の高騰、4. 保育士不足、5. 各種ハラスメント、6. 幼保小連携、7. 配慮を必要とするこどもへの対応等、どれ一つ取り上げても解決するのは大変です。以前は、待機児童対策が最も重要な問題でしたが、多くの施設を開設し、保護者が自由に選べる環境が整備されてきました。受け皿ができたとしても、保育の質を向上させることこそが重要であると考えます。「ひとをたいせつにする」気持ちを大事に、保育に携わるすべての皆さんが一步一步前向きにいろいろな課題に取り組んでいくことが必要です。大分市は、中学校給食費の無償化や認可外保育施設の第二子保育料免除等の施策を実施しています。是非とも給食費無償化等も実現して頂きたいと思っております。

結びに、私ども大分市保育部会が地域の皆さんや行政の皆さんと協力し、明日を担う子どもたちの将来に希望を持てるようワンチームとなって、子どもの最善の利益を守り、未来ある子どもの成長により良い環境を提供するよう努めて参ります。

府内こどもルームが新しくなりました。

大分市保育部会の広報委員会のメンバーでオープンしたての府内こどもルームに行き、子育て交流センター甲斐所長に話を伺ってきました。

まず入口を開けると、正面から木の香りがふわっと漂ってきました。甲斐所長によると「この府内こどもルームは、家具や玩具の多くに大分県産の木材が使用されています。オープンして間もないので来場者がとても多く、現在のところ人数制限



までしていませんが、落ち着くまで、特に週末は利用者が多いことが見込まれます。利用者の平均は1日100~300人程度で、靴の間違いを防ぐため、靴箱には番号をつけさせてもらっているので、受付時に協力をお願いしたい。」とのことでした。

J:COMホルトホール大分内にある中央こどもルームに次いで2番目の広さがあり、ワンフロアの中にランチルーム(右写真)や絵本コーナー、ままごと、知育玩具、赤ちゃんコーナー、そして、雨の日でも遊べる外庭を備えていました。授乳室は個室で3つあり、おむつ替えコーナー、鍵付きの貸ロッカー(無料)も設置されていました。



利用できる駐車場は、施設に隣接する立体駐車場が3時間無料ですが、大分中央警察署側からしか入れないので注意が必要です。

毎日何かしらのイベントがあり、読み聞かせのボランティアさんなどが来ているそうです。詳しくは、下の「府内こどもルーム」にお問い合わせください。

住所：大分市荷揚町3番45号、電話：097-532-7918

開所時間：9:30~17:00(12/29~1/3は休館)

あとがき

最後までお読み頂き、ありがとうございます。また、保育おおいだ70号の発行にあたり取材にご協力頂いた方々には感謝申し上げます。今回は府内こどもルームにお邪魔させて頂きました。県木材を使用した木のぬくもり溢れるイスやテーブル、本棚等、わが園にもあったら良いなと思えるものが揃った素晴らしい施設でした。丁度取材に訪れた日には、同施設内のコモンスペースにて「北村直登展」が行われており、製作中のご本人にお会いすることができました。力強い作品を目の当たりにでき、とても感激しました。皆さんも休日に遊びに行かれてみてはいかがでしょうか？今後も皆様に楽しい広報誌をお届けしていきます。(Y)